

# 昔の思い出

当時地御前は 広島縣佐伯郡地御前村 と言っていました。

昭和 10(1935)年 4月 地御前尋常高等小学校 入学

当時の校舎は大正 12 年に地御前村民の自発的な寄付 10 万円で新築された木造校舎。小僻村に不似合いな程ハイカラな青ペンキ塗りの大講堂と二十五の教室を有する二階建ての素晴らしい小学校で郡内でも有数の建物であった。

地御前村が、明治の初め貧困のどん底にあった頃、ハワイへの移民の話があり明治 20 年代から 30 年頃にかけて 1200~1300 人の人が出稼ぎに行き、稼いだお金を送金して来るようになり裕福な村へと変わった。そしてアメリカ村と言われるようになった。



〔昭和 5 年 3 月の卒業記念  
写真集より〕 (写真①②)



写真① 私達が学んだ校舎。右上の建物の  
一階に職員室、二階は講堂。

写真② 私達が学んだ頃の正門。👉

私達が小学校のころ地御前の人口は 3,000 人余りいたと思いますが、当時、海外に出ている人(ハワイ以外

に出ている人も含め)が皆帰って来たら人口が倍になると聞いていました。

昭和 27(1952)年 5 月 3 日 講堂(公民館として)落成。

昭和 30(1955)年 6 月 4 日 木造二階建て校舎竣工式。

昭和 39(1964)年 5 月 11 日 管理棟一期工事完了。

昭和 41(1974)年 3 月 30 日 // 二期工事完了。

昭和 49(1974)年 6 月 3 日 新校舎(現在の三階建)落成。

昭和 54(1979)年 6 月 30 日 屋内体育館完成。

**服装** ゴム靴で靴下はなく、特に冬は今とは違いよく雪が降り、また、道路は舗装

されていないのでべたべた道で、丁度、田圃の中を歩くようなもので靴の中に冷たい泥水が入り冷たかった。服は今と同じ学生服ですが夏・冬を通し半ズボンでした。なかには冬になると長いズボンをはいている人もいて、うらやましかったです。

### 小遣い 時々、一銭を貰う。(写真③)

買える物は、マーブロー、パッチン(1枚に10枚の絵が印刷されていて、切り離して使う、絵は関取の写真が

多かった)、食べるものはテッポウダマ(飴玉)2個、小さい四角なチョコレート2個、アイスキャンデー1本、ニッケイ1束、な

ど菓子の種類も少なかった。グリコのおまけ付きキャラメルは10個入りか5銭、20個入りか10銭でなかなか買って貰えなかった。

写真③ 当時、私達使って居たお金。



一銭 五銭 十銭 五十銭



写真④ 当時の壹円紙幣

『おかげんさん』や『馬とばし』の日は5銭か10銭の小遣いで、わた菓子、ミリンカスとか、それに今の文庫本位の大きさの本で『猿飛佐助』『霧隠才蔵』などがありよく買って読んだものです。太陽で焼き付ける写真機、百連発の鉄砲等は15銭以上で高く買って貰えなかった。

(写真④)は当時の壹円紙幣で中央の菊

の紋の下に日本銀行兌換銀券と書いてあるように、この紙幣を銀行に持って行けば壹円銀貨と交換して貰えるほどに価値のあるお金でした。

日常の遊び パッチン、マーブロー(ビー玉)、コマ回しなど。また自分で竹馬、竹トンボ、水鉄砲、紙鉄砲、杉鉄砲、など作ったり、自転車の車輪、樽の竹の輪・金の輪など廻したり、馬のり、兵隊ごっこ(鉄砲とか剣は自分で作る)(写真⑤)などして遊んだ。女の子はオジャミ、アヤトリ(糸とり)などをしていた。

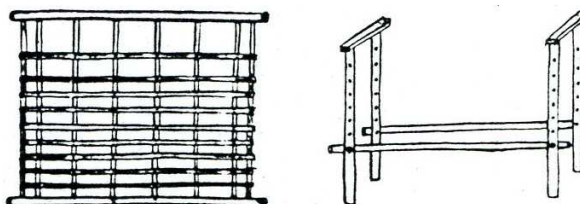


写真⑤ 兵隊ごっこの風景

農繁期には麦わらでホテルかごを編み、夏は地御前海水浴場で泳いで遊んだ。また、管絃祭の翌日泳ぎに行くと管絃船

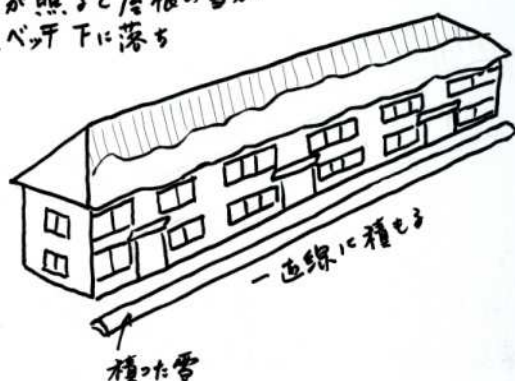
に投げた賽銭が海に落ちていてよく拾ったものだ、田屋に住んでいる友達は近いので、朝早くから行くと沢山拾えたそうです。

学校では 体操の時間には、跳び箱・鉄棒・棒のぼり・ロクボク・平行棒(写真⑥)・相撲などがあつた。運動会では、いろんな競技があり、一番から三番まではリボン(赤・青・黄の布切れで作ったリボンにピンが付いている)が貰え、胸に着けていたが、沢山付けている人を見ると自分もほしくなり、頑張ったものです。



写真⑥ ロクボクと平行棒

日が照ると屋根の雪がスベッと下に落ち



写真⑦ 校舎の屋根から落ち、積もった雪

を持ってきて“おかず”は野菜などを持ってきて父兄が味噌汁など作っていた。

冬はストーブなどはなく教室の真ん中に1m角位の火鉢が置いてあり炭火がおこされていた。

授業の内容は1年生では修身(道徳)・読方(国語)・書方(習字)・綴方(作文)・算術(算数)・図画・唱歌(音楽)・体操・手工(工作)、4年生になると理科、5年生になると国史(歴史)・地理が増えていった。宿題はあつたが余り多く無かつたように思う。通知簿(今のあゆみ)は甲・乙・丙で評価され、四年生から10点満点で評価されるようになった。

授業時間の初めと終わりには上級生で決められた人が、鐘(写真⑧)を鳴らして各階を廻っていた。当時今のようなチャイムは無かつた。

先生は授業が始まると教科書に竹の“根ブチ”を持って教室に入て来た。騒いだり、悪いことをするとその“根ブチ”で叩かれた。

トイレは屋外に別棟で2棟あり、今のような水洗式ではなく、汲み取り式であつた。

掃除は教室・廊下共に雑巾掛けをし、校庭を始め大歳神社・地御

舎の屋根から雪が滑り落ち、校庭に一直線に積もるので竹でソリを作り、皆が両方から手を引っ張って滑ったりした(写真⑦)。学校のすぐ裏が桃山で、斜面を滑ったり、土を掘ると水晶が出てきたりした。

**小学校** 一年生の時は男女共学で、二年生からは男女別々のクラス分けとなる。私達のクラスは多く73名で、2クラスあつた。昼は給食などはなく、みんな家に食事に戻っていた。阿品の人は遠いので弁当



写真⑧ 鐘

前神社の境内まで掃除をしていた。地御前神社の掃除では床の下を掃除すると、よく賽銭の一銭が落ちていたものだ。

校庭の掃除中に、梅の木にホウキを投げ梅を落としていているところを先生に見つかり、皆が暗くなるまでそこに立たされた事もあった。

学校では、今『光の園』がある一帯を、村が村民の協力を得て開墾し『共栄農園』を作った(写真⑨)。小学生もその開墾を手伝い、一部が学校農園として割り当てがあり、授業時間中によく農作業に行きました。



写真⑨ 共栄農園の開墾風景

小学校のモットーは『先ず健康』(写真⑩)で、12月14日(四十七士討ち入りの日)は



写真⑩ 校舎に掲げられた『先ず健康』の看板

広島の国泰寺まで往復歩いた。遠足もチチヤス牧場、桜尾城址、廿日市桂公園など、みんな歩いて行っていました。6年

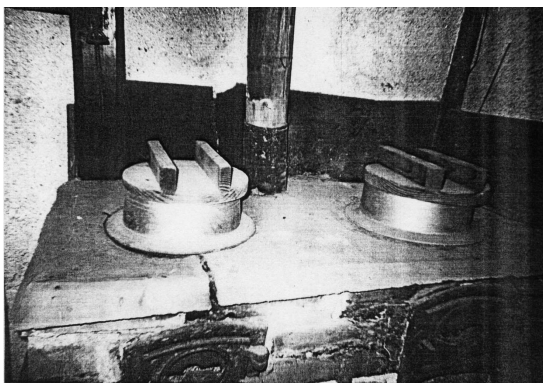
生の時は宮内一友和一仙酔

峠一原を通って、地御前に着く頃は暗くなって居たことも有りました。『神能山』にも体操の時間以外に、遊びやキノコ採りでよく登りました。

祭日は朝、学校に出て記念式典があり、式が終ると帰っていた。正月は式の後全員ミカン(村の有志から寄贈されたもの)を貰って帰った。

『神能山』標高167m。頂上に一本の大きな老松があり、遠くから見ると筆という字に見えたことから、筆松と呼ばれていた。地御前に帰る漁船の目標にもなった。

**家の手伝い** 麦刈りや田植えの頃には、農繁期といって学校も休みとなり、麦刈りや田植え



を手伝ったり、弟や妹の守をさせられました。また、食事の支度もしました、米をといで炊きますが、カマド(くど)(写真⑪)ですので最初の炊きつけも大変ですが、煮こぼれると火を引いて蒸します、余程気を付けていないと焦げてしまいます。おかずも味噌汁や野菜の煮物も作っていました。

写真⑪ 昔のカマド(くど)